

知恵のある選手を育てる

2021・12・10 重枝 一郎

私は、以前サッカーの指導を熱心に行っていた。よく言われることが、プレーができるからといって、よい指導者になるとは限らない。私も教師になりたての頃は、自分の経験則だけで指導していた。そしてそれは熱血指導である。ところが、2校目の赴任校にはサッカー部がなく、私が創部することになった。他の部活との兼ね合いもあり、1年生だけの入部という立ち上げになった。それは特に問題ではなかったのだが、その学校の地域はサッカーを経験している生徒がおらず、サッカーの一般的な言葉やルールなどから教えることになった。それでも部員は、そこそこ集まった。私は、初めてサッカーの指導の勉強をした。海外サッカーを含め、膨大ないろんな「知識」を手に入れた。未経験であろうが、絶対こいつらをうまくするという思いだった。サッカーの戦術は、「個人戦術」「グループ戦術」「チーム戦術」が繋がって成り立っている。つまり、個人からチームまで行ったり来たりして考えなくてはならない。(私は、指導の勉強は、学校教育や社会と、それとオーバーラップし、サッカーだけでなく、教科指導や生徒指導の「知恵」を同時に獲得しているような感覚であった。)

戦術の中でも「チーム戦術」だけを取り出して考える指導者をよく見た。これは、机上の空論に陥りやすく、私の主観ではあるが魅力的なチームとは言えなかった。私は、サッカーを教える中で、コーチングを学び、「知恵のある選手」を育てたいと強く思っていた。練習では、鬼ごっこやドッジボールなどを取り入れたのもそういう遊びの中から「知恵」が養われるような気がしていた。

さて、このことを私たち教師に置きかえて考え見てほしい。私たち教師は膨大な「知識」を手に入れた一方で、「知恵」を身につけたり、磨いたりすることが疎かになっていないかと思っている。私は、サッカーの指導において、「知恵のある選手」を育てるためには・・・と考えていた。だが今は、「知恵のある教師」について考えている。

仕事や人生をより良くしていくためには、「知恵」を養うことが大切といわれる。よく「生活の知恵」という言葉を聞く。これは生活を豊かに、楽しくする秘訣と言われる。「知恵」を養えば、仕事上の不要なトラブルを避けたり、困難にあった時にもそれを上手に乗り越えることができたりするからである。

つまり、「知恵」を定義すると、「しっかり現実を捉え、より良く先を見通す力」と言える。一言で言うと「問題解決能力」である。この言葉、最近教育界でよく聞く言葉でもある。「知識の活用」＝「知恵」ということである。しかしながら、私たち自身はどうなんだろう。ちゃんと不要なトラブルを避けたり、困難な事案を乗り越えたりする力が身についているだろうか。

では、どうしたら「知恵」を身につけることができるだろうか。「知識」ではなく「知恵」を……。私も答えをもっているわけではないが、ちゃんと人と関わっていれば、経験と相まって、「知恵」を身につけていくことができると思う。今、いろんなことで苦労している先生もいると思う。いつの時代もそうであったように「知恵」で乗り越えられる。人と関りながら「知恵」を獲得してほしい。人というのは、生徒、同僚、保護者・・・誰でもである。

「知恵」を獲得すれば、今まで感じたことのないような感情を獲得することもできる。今までだったら到底解決できないと思っていたことでも解決できる。大きな人生の壁を壊すこともできる。そんな風になればうれしいよな。

生徒指導部主任の平野先生が、本日と先週に、夜7時半から街頭補導（南区）に行ってくださいています。ありがとうございます。